

いわて高等教育コンソーシアム体制図

いわて高等教育コンソーシアム理事会

コンソーシアム運営委員会

教育研究環境基盤整備等プロジェクト委員会

- No.1** 共通キャンパスの整備
- No.2** Webを活用した授業学習支援システムの導入
- No.3** いわて情報ハイウェイを活用したネットワーク構築
- No.4** 遠隔講義(TV会議)システムの構築
- No.5** eラーニングシステムの構築
- No.16** いわて情報ハイウェイを活用した講義の配信
- No.17** 共通キャンパスを活用した公開事業の実施
- No.18** 拡大版ウインターセッションの実施

人材育成・地域文化拠点形成プロジェクト委員会

- No.8** 地域人材育成(岩手学)講座の開設
- No.9** 特色ある講義の充実
- No.14** 地域文化(平泉、賢治、言語など)研究の推進

SDプロジェクト委員会

- No.6** SD研修の共同実施

FDプロジェクト委員会

- No.7** FD研修の共同実施

教育の国際化プロジェクト委員会

- No.11** 留学生教育の充実
- No.12** 教育の国際化

- No.13** 東アジアとの連携強化

地域の活性化プロジェクト委員会

- No.19** スポーツユニオン、シニアカレッジ等の実施
- No.20** 生涯学習の場の提供

地域課題解決プロジェクト委員会

- No.10** 学生の地域参加プロジェクトの実施
- No.15** 地域医療・福祉の向上を目指す研究の推進

(参加校:○)
(主務校:◎)

取組	番号	事業名	岩手	県立大	医科大	盛岡大
(1) 教育研究環境の基盤整備	No.1	共通キャンパスの整備	○	◎	○	○
	No.2	Webを活用した授業学習支援システムの導入	◎	○	○	○
	No.3	いわて情報ハイウェイを活用したネットワーク構築	◎	○	○	○
	No.4	遠隔講義(TV会議)システムの構築	◎	○	○	○
	No.5	eラーニングシステムの構築	◎	○	○	○
	No.6	SD研修の共同実施	◎	○	○	○
(2) 教育力の向上	No.7	FD研修の共同実施	◎	○	○	○
	No.8	地域人材育成(岩手学)講座の開設	○	◎	○	○
	No.9	特色ある講義の充実	○	○	◎	○
	No.10	学生の地域参加プロジェクトの実施	○	○	◎	○
	No.11	留学生教育の充実	◎	○	-	○
	No.12	教育の国際化	◎	○	-	○
(3) 知の拠点形成	No.13	東アジアとの連携強化	◎	○	○	○
	No.14	地域文化(平泉、賢治、言語など)研究の推進	○	○	○	◎
	No.15	地域医療・福祉の向上を目指す研究の推進	○	○	◎	○
(4) 大学進学率の向上	No.16	いわて情報ハイウェイを活用した講義の配信	○	○	○	○
	No.17	共通キャンパスを活用した公開事業の実施	○	◎	○	○
	No.18	拡大版ウインターセッションの実施	○	○	○	◎
(5) 地域の活性化	No.19	スポーツユニオン、シニアカレッジ等の実施	◎	○	○	○
	No.20	生涯学習の場の提供	○	○	○	◎

今後の予定

- FD合宿研修**
■開催期間:8月20日(木)~21日(金)
- ヤングリーダーズ国際研修 09 in IWATE**
■開催期間:8月26日(水)~9月4日(金)
- 第59回 東北・北海道地区大学一般教育研究会**
■開催期間:9月3日(木)~4日(金)
- 第6回 全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム**
■開催期間:9月12日(土)~13日(日)
- SD合宿研修**
■開催期間:9月17日(木)~18日(金)

連携校紹介

富士大学



富士大学は、経済学部の単科大学として、経済学科・経営法学科・経営情報学科の3学科を設置しています。社会の情報化や国際化が進展する中で、市場経済を解明したり、ビジネスの現場で必要とされる力を身に付けることができます。特色あるコース制をとり、経済学・経営学などの知識をより効果的に実践・応用していけるノウハウを学びます。

また、細やかに指導する少人数ゼミ制を採用し、学生と教員の距離が近く、教員もまた学生たちと一緒に学び、自己実現に向かって努力を重ねる仲間という関係が築かれています。富士大学では学問とともにスポーツ活動を重視し、300mトラックやプールを内包する屋内総合体育館の他、人工芝サッカー場、野球場、全天候型400m陸上トラックなどスポーツ関連施設を充実させています。この様な環境から全日本大学野球選手権大会での準優勝(2009)、北京五輪日本女子ホッケー代表の小沢みさき選手の輩出(2008)などスポーツ分野でも大きな活躍をしています。

富士大学は、単に机上の理論を教える教育機関ではなく、地域社会から学び、地域社会に貢献することを実践しています。富沢賢治が愛した岩手・花巻の風を受け、多くの学生が富士大学で新しい自分を発見しています。

いわて高等教育
コンソーシアム
構成大学

岩手大学

富士大学

岩手県立大学

盛岡大学

岩手医科大学

発行
連絡先

いわて高等教育コンソーシアム <http://www.ihatov-u.jp/>

いわて高等教育コンソーシアム事務局(岩手大学研究交流部研究協力課)
〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目1-8
TEL.019-621-6853 FAX.019-621-6995
メールアドレス:ihatov5@iwate-u.ac.jp

いわて高等教育コンソーシアムニュースレター

NEWS LETTER

創刊号

発刊にあたって



いわて高等教育コンソーシアム
運営委員会委員長
齋藤 徳美
岩手大学理事(総務・地域連携担当)・
副学長

本州一広い岩手県において、県内の全ての4年制大学(岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学)は、平成12年に高等教育・学術研究の振興と地域社会の発展に寄与することを目的に、「いわて5大学学長会議」を組織し、単位互換、図書館の相互利用、高大連携事業等に取り組みとともに、5大学の学長がリネラーを務めるシンポジウムを毎年開催し、地域社会に対して5大学連携の活動を広く発信してきました。このような取組実績のもと、文部科学省戦略的大学連携支援事業総合的連携型(広域型)に「いわて高等教育コンソーシアム」における地域の中核を担う人材育成と知の拠点形成の推進」として申請し、平成20年9月に採択されました。

「いわて高等教育コンソーシアム」は、教育研究分野の異なる5大学が、自らの大学の特色を最大限に活かしつつ連携を強化し、1) 地域の中核を担う人材の育成、2) 全国最低クラスの大学進学率(38%)の向上、3) 地域社会の活性化の3つを設立の目的に掲げております。

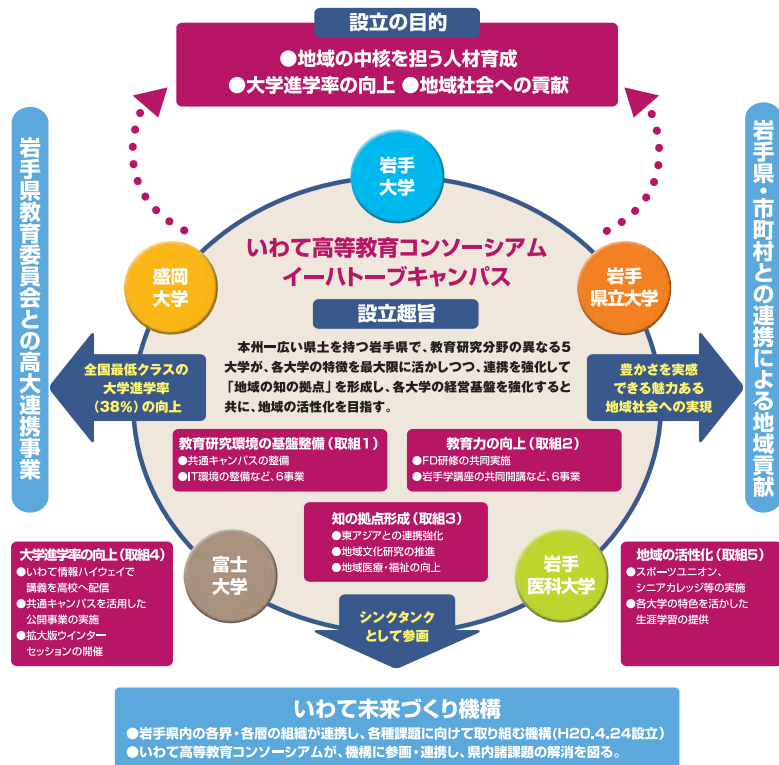
また、平成20年4月には、岩手県でも若者の県外流出、少子化・高齢化の進行、県内経済の停滞、大都市圏との経済・雇用の格差などの諸課題を解決すべく、遼東岩手県知事を始め、県内の各界・各層が横断的に連携した産学官のオール岩手の組織ともいえる「いわて未来づくり機構」が設立されました。

「いわて高等教育コンソーシアム」は、そのシンクタンクの組織として機構に参画し、諸課題の解決にむけて積極的にその責務を果たしていきたいと考えています。

第1回となる本号では、「いわて高等教育コンソーシアム」の連携取組の概要、また、現在までのトピックスを掲載しておりますので、関係機関の皆様におかれましては、さらなるご理解、ご支援をお願い申し上げます。



いわて高等教育コンソーシアムにおける 地域の中核を担う人材育成と知の拠点形成の推進



いわて高等教育コンソーシアムの実施体制について

「取組1.教育研究環境の基盤整備(6事業)」、「取組2.教育力の向上(6事業)」、「取組3.知の拠点形成(3事業)」、「取組4.大学進学率の向上(3事業)」、「取組5.地域の活性化(2事業)」からなる5つの取組・20事業を、連携大学が責任を持って進めていくため、トップに5大学の学長がメンバーを務める「理

事会」を置き、次いで各連携大学代表者と各プロジェクト委員会委員長がメンバーを務める「運営委員会」、更に各事業を進めていくための「プロジェクト委員会」の三層体制とし、連携校の特色が十二分に発揮できる体制に整備しました。

T O P I C S

ヤングリーダーズ研修の実施

【教育の国際化プロジェクト委員会】 ▶平成21年2月18日(水)～27日(金)

国際教養科目の試行プログラムとして、平成21年2月18日(水)～27日(金)の期間「食と持続可能な社会」をテーマに、「ヤングリーダーズ国際研修」を開催しました。具体的には、アジア3カ国(タイ、韓国、中国)から学生及び引率教員合計17名を招へいし、連携大学の学生11名とともに、持続可能な社会の構築のための行動について、体験や討論を通じて考え、行動計画を策定しました。研修中は日本語と英語の二言語併用でコミュニケーションが図られました。参加した学生からは、「体験と討論を重ね、そこから出たアイデアに対してさらに問いかけを繰り返すことにより、自らが課題を発見し、その解決に向けた方策を構築するおもしろさを学んだ。」などの意見があり、非常に有意義な研修となりました。



SD研修の実施

【SDプロジェクト委員会】 ▶平成21年3月5日(木)～6日(金)

平成21年3月5日(木)～6日(金)の期間、各連携大学で研修を企画・立案をしている人事事務担当職員を対象に、「SD担当者のレベルアップ」というテーマで研修会を行いました。本コンソーシアムの取組担当者である後藤尚人准教授(岩手大学)よりコンソーシアムの概要と目指すべき目標についての説明を受けた後、合宿研修会の会場に移動し、外部講師による研修を受講しました。研修は、「1.多面的に考える「いい研修」」「2.研修の基本ステップ」「3.研修の企画(Plan)」「4.研修の運営(Do)」「5.研修の効果測定と評価(Check)」「6.研修のフォローと見直し(Action)」「7.行動目標づくり」の7つのパートからなり、それぞれ講義と演習を行いました。参加した職員は、熱心にメモをとりながら講義をうけるとともに、演習では連携大学の職員同士で協力して課題に取り組み、体系的な研修の必要性を学びました。なお、平成21年度は研究協力事務担当職員の研修会を計画しています。



スポーツ・健康支援システムの導入に関する説明会の実施

【地域の活性化プロジェクト委員会】 ▶平成21年5月12日(火)

平成21年5月12日(火)に連携大学のスポーツ分野の教員を対象に、スポーツ支援・健康支援システムのひとつである「2次元3次元動作解析装置」の操作説明会を行いました。本装置は人間の行動(動作)を高速度カメラで撮影するとともに、軌道等についてデータを収集し、簡易に詳細な分析が行える装置です。今回導入した「2次元3次元動作解析装置」を、連携大学のスポーツ分野の教員が機能的に活用することにより、県内の各種競技・各階層の指導者育成の充実や県内のスポーツ分野の底辺拡大が見込まれます。また、子どもの体力向上などを含めた生涯スポーツなど県民の健康づくりの環境を支援する各種取組を計画中です。



アイアシスタント導入に関する説明会の実施

【教育研究環境基盤整備等プロジェクト委員会】 ▶平成21年5月20日(水)

平成21年5月20日(水)に、盛岡大学に導入された授業学習支援システム「アイアシスタント」の教員向け説明会を開催しました。授業学習支援システム「アイアシスタント」は、平成17～19年度文部科学省特別教育研究経費により、岩手大学が(株)アイシーエスと共同開発したシステムで、シラバスや授業記録に加え、科目毎の電子掲示板(BBS)、課題・レポートなど、受講期間を通じて教員と学生が双方向的に活用できる多様な機能を有しています。説明会では、本コンソーシアムの取組担当者である後藤尚人教授(岩手大学)からコンソーシアムの全体概要の説明が行われた後、江本理恵准教授(岩手大学)からのシステム開発におけるコンセプト、(株)アイシーエスの担当者からのシステムの使い方の説明が行われました。参加教員からは、システムの機能や使い方についての質問が出され、本システムに対する期待の高さが伺われました。なお、文部科学省戦略的連携支援事業期間中には、他の連携大学にもそれぞれにカスタマイズされたシステムを導入し、学生が単位互換科目を履修しやすい環境を整備するとともに、教員の日常的な授業実施や授業改善のツールとしても活用し、教育研究環境の基盤整備を図る予定です。



遠隔講義(TV会議)システムを活用したノーベル物理学賞受賞者 益川敏英先生の講演配信

【教育研究環境基盤整備等プロジェクト委員会】 ▶平成21年6月13日(土)

平成21年6月13日(土)に開催された岩手大学創立60周年記念式典で、2008年ノーベル物理学賞受賞者の京都産業大学益川敏英教授(京都大学名誉教授)が、「現代科学と市民」と題して記念講演を行った際、平成20年度末に導入した遠隔講義(TV会議)システムを活用して、連携大学に益川教授の講演をリアルタイム配信しました。各連携大学のキャンパスで益川教授の貴重な講演に耳を傾けた学生や一般市民からは、「ノーベル賞受賞の益川先生の講演を聴けて本当に感動した」、また「わざわざ盛岡市にある岩手大学のキャンパスまで行かなくても自宅周辺の大学で聴講できて良かった」など、多数の感想が寄せられました。なお、今後遠隔講義(TV会議)システムは、岩手県の「いわて情報ハイウェイ」を活用して各大学の講義を連携大学にリアル配信し、単位互換の促進を図るとともに、高校生に高等教育機関の関心を持ってもらうため、県内の高等学校に対しても大学の講義を定期的に配信する計画です。



広報関連

■平成21年1月27日(火)に開催した「いわて高等教育コンソーシアム設立記念シンポジウム」が岩手日報・岩手日日新聞・盛岡タイムスなどに掲載されるとともに、岩手めんこいテレビなどにも取り上げられました。

■本コンソーシアムの取組状況が、学校法人河合塾の進路指導情報誌「ガイドライン4・5月号」の特集「教育改革ing 大学間連携」に掲載されました。

いわて高等教育コンソーシアムは、積極的に情報発信を行い、地域社会や県民の皆様にもコンソーシアムの取り組みを理解してもらうよう今後とも活動を続けていきます。